

2012.6.1

## リスク消息 < 中国関連リスク情報 > 月刊 6月号

&lt; 2012 No.3 &gt;

「リスク消息 < 中国関連リスク情報 >」は、中国に拠点をお持ちの企業や中国の駐在員の方々向けにお届けするリスク情報誌です。「月刊」と「特別号」の2種類が発行され、「月刊」では、中国における種々のリスク(自然災害、法令違反、情報漏洩、労務リスク等)について、発行の前月に公表・報道された主要ニュース一覧と、ニュースに関連するお役立ち情報を簡潔に記載しています。また、「特別号」では、時節に応じた話題や、社会の関心が高いトピック等を取り上げて解説しています。

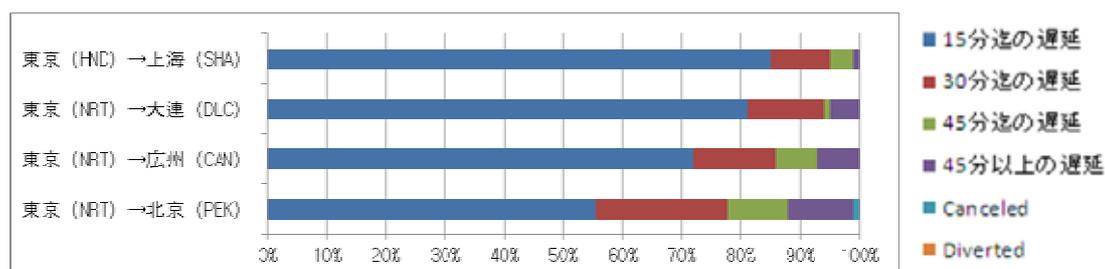
### 今月のお役立ち情報：中国の航空便遅延リスク

中国の駐在員や出張者の方々から、「中国では飛行機がよくディレイ（遅延）する」と聞くことがあります。以下、中国の航空機遅延の現状と、出張時に留意すべき点をまとめました。

#### (1) 東京から中国各都市への遅延リスクについて

図1は、東京発中国各都市向けの航空便について、定時から到着遅延時間の実態を示したものです。北京着便に関しては定時到着率（15分迄の遅延を含む）が50%台と低くなっているものの、上海着、大連着、広州着は70%以上の定時到着率が確保されています。なお、比較のために中国以外の都市への定時到着率を見てみますと、ニューヨーク(JFK)着便で74%、ロサンゼルス着便が66%、ロンドン着便が79%となっていることから、中国各都市へのフライトが特に遅延リスクが高いとは言えないでしょう。

< 図1；東京発中国主要都市向けの到着遅延時間の実態 >



(FLIGHTSTATS サイト <http://www.flightstats.com> を基に作成。対象期間は2012年3月15日～5月15日迄、対象便は当該路線の全便)

#### (2) 中国国内線の遅延リスクについて

次に、中国国内線における遅延リスクについて概観します。図2-(1)、(2)は、中国系の大手航空会社a社とb社について、各航空会社が持つ主要20路線の定時到着率に関する数値を示したものです。双方の航空会社ともに、定時到着率が50%未満(赤字)となっている路線が多数見られます(なお、図中の On-time は15分迄の遅延を含みます)。また、定時到着率が10%台や20%台の路線も見られ、このような路線はもはや遅延が常態化しているといえるでしょう。さらには、最大遅着時間が5時間以上(青字)となっている路線も多く見られます。

< 図 2 - (1); 中国系航空会社 a >

	Flight Route		On-time	Delay(min.)	
	Departure	Arrival	%	Avg	Max
北京発着	北京	深圳	27%	65	573
	北京	広州	63%	56	375
	北京	ウルムチ	77%	40	533
	北京	長春	63%	42	361
	深圳	北京	49%	79	532
	ウルムチ	北京	80%	24	234
	大連	北京	78%	59	611
広州発着	長春	北京	80%	33	350
	広州	義烏	46%	89	651
	広州	北京	65%	60	529
	広州	三亜	61%	51	435
	広州	鄭州	59%	59	595
	広州	海口	63%	58	338
	広州	成都	52%	47	509
	成都	広州	37%	62	518
	南京	広州	47%	66	405
	鄭州	広州	57%	66	447
海口	広州	71%	42	388	
三亜	広州	63%	43	465	
桂林	広州	77%	52	329	

< 図 2 - (2); 中国系航空会社 b >

	Flight Route		On-time	Delay(min.)	
	Departure	Arrival	%	Avg	Max
北京発着	北京	昆明	14%	100	525
	北京	上海	70%	33	297
	北京	太原	68%	30	515
	太原	北京	75%	26	189
	昆明	北京	79%	45	352
上海発着	上海	香港	37%	53	431
	上海	成都	81%	37	427
	香港	上海	58%	25	143
成都発着	温州	上海	63%	34	296
	成都	上海	60%	54	243
その他	成都	昆明	45%	43	164
	昆明	成都	50%	54	394
	昆明	広州	85%	35	295
	昆明	騰衝	65%	24	154
	昆明	江西	54%	27	174
	昆明	麗江	83%	27	132
	昆明	長沙	30%	81	430
	広州	昆明	52%	72	197
	騰衝	昆明	47%	64	465
	江西	昆明	62%	36	263

(FLIGHTSTATS サイト <http://www.flightstats.com> を基に作成。対象期間は 2012 年 3 月 15 日～5 月 15 日迄、対象便は航空会社 a および航空会社 b の全便)

なお、比較のために日系航空会社における日本国内路線の定時到着率を見てみると、主要都市間の定時到着率は 90% 前後となっているとともに、最大遅延時間も 80 分～90 分程度となっています。

このことから、中国国内の都市間の航空便遅延リスクは極めて高く、中国の複数都市に出張する際は、遅延リスクを念頭においたスケジューリング等の対策が必要になります。

### (3) 航空便遅延リスクへの対策について

図 2 上に黄色ハイライトで示したのは、「定時到着率が 50% を切る路線」かつ「最大遅延時間が 5 時間以上」となっている路線です。これらの路線は、北京、上海、広州、深セン、成都、香港等、特に日本人出張者が多い都市も含んでおり、これらの都市間での出張がある場合は特に余裕を持ったスケジュールを立てること（前日入りする等）が望まれます。

なお、遅延リスクを高める要因として、「悪天候（大雨、暴風、濃霧、大雪等）」、「過密ダイヤ」、「偏西風の影響」等が挙げられます。あらかじめ、離発着地の天候（例；濃霧の発生情報、台風等の進路予測等）を把握したうえで出張時期をずらしたり、相対的に過密ダイヤとなっている大都市空港の早朝・夕刻の離発着便は避けたりすることで遅延リスクは低くなります。また、偏西風が強くなる冬季は、中国沿岸部の都市から内陸都市への長距離路線（西に向かうフライト）は、遅延リスクが高くなる可能性がありますので、時間的に余裕をもったスケジュールを立てたほうが安全といえます。

とはいえ、遅延リスクを減らすための対策をした場合であっても、結果的に大幅なディレイに巻き込まれてしまうこともありえます。このような場合は、速やかに日本本社、現地法人、取引先、宿泊先等へ状況報告を行ったり、その後の指示を仰ぐことが必要となります。このため、出張時には中国で使用可能な携帯電話および充電器を持参することは勿論のこと、国外/国内への電話のかけ方なども確認しておくことは必須です。また、出張案件の重要性によっては、ディレイが発生した場合でも優先的に他の航空会社や次便への振り替え搭乗が可能となるよう、クラスの高いチケット（割引無しの正規運賃等）を手配するなど有効でしょう。

## 今月のお役立ち情報：中国のリスクマネジメント関連イベント

この7月にはリスクマネジメント、危機管理、BCMに関連するイベントが中国で二つ予定されていますので、ご案内します。いずれも国際的に活動している組織によるカンファレンスで、国内外から多数の専門家の参加が予定されており、有意義なプログラムとなることが期待できます。特に中国現地法人の方々にとって、これらの分野について情報収集していただくには絶好の機会と思われます。

### (1) BCI China Conference 2012

日付： 2012年7月3日(火) 4日(水)

場所： Intercontinental, NO.777 Zhangyang Road, Pudong, Shanghai, China  
(上海洲際大酒店)(中国上海浦東新区張楊路777号)

参加費： BCI 会員：一人RMB4,650(食事代を含む) / 非会員：一人RMB5,682

申し込みおよび詳細問合せ先： BCI 本部(英国・レディング) Lucy Burns 氏

E-mail: Lucy.Burns@thebci.org

[http://www.thebci.org/index.php?option=com\\_content&view=article&id=201&Itemid=284](http://www.thebci.org/index.php?option=com_content&view=article&id=201&Itemid=284)

取り扱われるテーマ(予定):

危機管理、サプライチェーン、ICT レジリエンス(情報システム等の災害対応力)、サイバーセキュリティ、BCMS(ISO22301)、自然災害対応、BCM に対する経営層の関与、等

BCM の専門家や実践者による国際的な非営利団体である BCI (The Business Continuity Institute) が主催するカンファレンスで、英国、シンガポール、マレーシア、インド、日本など各国から多彩な講演者を集めて開催される。また単にプレゼンテーションを聴講するだけでなく、講演者を含めてより自由な意見交換ができる「roundtable discussion」の時間が、両日とも設けられています。

なお、当日は展示会も併設され、中国でビジネスを展開しているリスクマネジメント関連企業が多数出展すると思われます。

### (2) 国際危機管理学会(TIEMS)中国支部 第三回年次大会

日付： 2012年7月7日(土)

場所： Guangdong Hotel, 309 Mid Dongfeng Road, Guangzhou, Guangdong, China  
(広州広東大厦)(中国広州越秀区東風中路309号)

参加費： 一人RMB1,000(食事代を含む)

申し込みおよび詳細問合せ先： TIEMS 中国支部事務局(北京) Zhan Huifang 氏

E-mail: zhanhuifang@hidrema.org

Tel: +86-10-58732299-916 / Fax: +86-10-58732388

取り扱われるテーマ(予定):

緊急対応体制の構築、リスクマネジメント、自然災害対応、運輸安全マネジメント、緊急対応に関する教育・訓練・演習、緊急対応におけるNGOの役割、等

TIEMS (The International Emergency Management Society) とは、緊急事態や災害等の危機管理に関する専門家や、企業や組織の実務者による非営利団体です。本部はベルギーにあり、今年5月には日本支部も設立される等、活動範囲を拡大しつつあります。

具体的な講演プログラムは未定ですが、過去のプログラムや TIEMS で発表された数々の論文などから、非常に内容の濃い講演となることが予想されます。前項で紹介させていただいた BCI のカンファレンスが BCM を中心に据えているのに対して、TIEMS では危機管理や災害対応など、より広い範囲での議論が行われるのが特徴です。

## リスク関連ニュース一覧(2012年4月16日～5月15日)

### 【事件・事故】

4月25日の朝、広東省東莞市内の飲食店でガス爆発事故が発生した。従業員がガス臭に気付いて元栓を閉じようとしたが、栓が動かなくなったため。異変を感じた店内の人全員が逃げ出した直後に爆発したという。この飲食店は10日前に改装工事を終えたばかり。

(5月1日サーチナ)

4月23日の午後に、広東省珠海市の香州港で、規則に反する溶接作業が原因で、軽油を積んだ小型タンカーが炎上した。出火後2時間程度で鎮火したが、船上にいた作業員1人が病院に運ばれて治療を受けた。

(4月25日サーチナ)

重慶市九龍坡区内で、走行中のトラックが高圧電線に引っかかり、爆発・炎上した。運転手は飛び降りて逃げたため奇跡的に無事だった。

(4月18日サーチナ)

江蘇省南京市内で走行中のバスで火災が発生した。運転手の適切な避難誘導により、乗客約30人は無事だった。猛暑が出火原因となっている可能性があるという。なお中国では2012年になってから中国新聞社が報じただけでも3件、運行中のバスが炎上する事故が発生している。

(4月24日サーチナ)

北京の首都国際空港で、航空機の誘導をしていた地上職員2人に落雷した。2人とも直ちに病院に運ばれたが、命に別状はないという。

(4月23日サーチナ)

### 【医療】

中国政府の衛生部統計センターが発表した「医療サービスに対する満足度調査報告」によると、2/3以上の市民が「満足している」と回答したことになっているが、国内メディアや一般市民から、データの信憑性を伺う声が上がっている。

(5月9日サーチナ)

美容整形に伴うトラブルが急増している。背景には医師の資格を持たない者による施術や、偽物の薬剤の使用があると見られる。

(5月15日サーチナ)

## 【食品安全・製品安全】

雲南省の小学校で、給食に変色や異臭があるにもかかわらず、残さず全部食べるよう教師が生徒に強要したため、同校生徒の半数以上に当たる 368 人が食中毒症状を訴え、病院で治療を受けた。県政府が調査したところ、学校食堂を運営している業者が飲食サービスや食品衛生に関する許可を取得しておらず、食材の購入や保管も杜撰であった。

(4月24日 サーチナ)

北京市内の飲食店で、料理にハエの幼虫のような虫が入っているのに気付いた客が、支配人を呼びつけたところ、支配人はその虫を飲み込んで証拠隠滅を図った。

(4月30日 サーチナ)

中華の代表的料理のひとつである「紅焼肉」に、「肉宝王中王」という添加物を使用する店が多い。専門家によると、この添加物の大部分は人工的に合成されたもので、胃腸の粘膜を痛める可能性のある成分が含まれているが、現状では使用を禁止する規制はない。

(5月1日 サーチナ)

## 【犯罪】

陝西省某市の公務員 10 人が、会議と称して香港やマカオに観光旅行をしていたことが分かり、責任者 2 名が停職処分となった。

(4月23日 サーチナ)

中国広東省の某村では、村の元幹部の腐敗や独裁に対して、住民が陳情やデモなどの抗議行動を昨年 9 月から繰り返しているが、4月20日に党規律検査委員会が、村の元幹部 8 人の身柄を拘束し、取り調べを始めた。

(4月23日 サーチナ)

株式会社インターリスク総研は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。中国進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問い合わせ先、または、お近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先  
（株）インターリスク総研 コンサルティング第二部  
TEL.03-5296-8918 <http://www.irric.co.jp/>

瑛得管理諮詢（上海）は、中国 上海に設立されたMS & ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスを提供させて頂いております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先  
瑛得管理諮詢（上海）有限公司（日本語表記：インターリスク上海）  
上海市浦東新区陸家嘴環路1000号 恒生銀行大廈24楼142室  
TEL:+86-(0)21-6841-0611（代表）

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。  
また、本誌は、読者の方々および読者の方々が所属する組織のリスクマネジメントの取組みに役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製 / Copyright 株式会社インターリスク総研 2012